



学校だより

1月号
横浜市立桜台小学校
令和3年1月6日発行

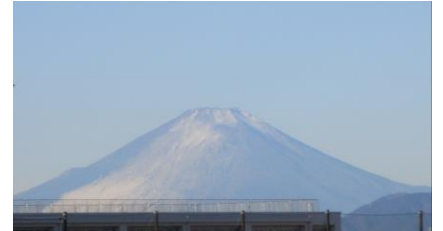
桜台小の潜在力 ～受け継がれていくもの～

校長 小宮 健

新年あけましておめでとうございます。

コロナ禍の中での年越し。皆様におかれましては年末年始をどのように過ごされたでしょうか。慣例の行事や風物詩にも様々な影響があったことと思います。

さて、令和3年の年頭にあたり、桜台小学校の教育活動の成果について改めて考えてみました。本校の「強み（長所）」と実感していることをいくつか紹介いたします。



校舎屋上からの富士山

〈たてわり活動「きずな集会」〉

今年度はコロナ対策のため、保土ヶ谷公園への全校遠足の代わりに校内での全校集会を実施しました。計画・運営の中心となっている5年生たちは、みんなに楽しんでもらうという目的のほかに、今年は感染予防の条件をクリアするために内容を熟考して、工夫されたゲームを見事に進行しました。

また、ある朝の出来事です。青空のもと6年生が校庭で卒業アルバムのクラス写真を撮影していました。近くで1年生が遠足に出発する前の活動をしていたのですが、その様子に気づいた6年生たちは全員西門まで移動し、手を振りながら笑顔で「行ってらっしゃーい!」「楽しんできてねー」「気をつけてねー」などと声をかけて見送っていたのです。朝陽に照らされたその光景はとても温かく、「そういった行動が自然にできる上級生は素敵だなあ」と私は思わず微笑みました。

本校では毎年、卒業する前に下級生たちが6年生へ手紙を書きます。この日のような関わりがきっと、「優しかったあのお兄さんに渡したい」「お世話になったあのお姉さんに『ありがとう』と伝えたい」という感謝の気持ちとなって表れるはずです。思いやりの心が育っている「たてわり活動」。卒業生たちは1年生から手紙を受け取りながら5年前の自分たちの姿を懐かしく思い出すのではないのでしょうか。



1年生を笑顔で見送る6年生

〈時と場をわきまえた行動〉

本校児童の避難訓練への参加態度は大変立派です。緊張感をもって行動し、避難した後の私語は一つもありません。これまでの勤務校を振り返ってみても桜台小はピカ一です。副校長も同感だそうです。朝会などで全校の児童が集合するとその場の空気感を察し、教師の指示を待たずにさっと静かになります。遠足や校外学習で公共のマナーを守って行動する姿にも目を見張るものがあります。

〈8時00分の職員室〉

毎朝8時になると、それまで活気のあった職員室がスーッと静かになります。8時5分の開門に合わせて、職員がそれぞれの教室や校門・昇降口へ向かうからです。担任は教室に入ってくる子どもたちを笑顔で「おはよう!」と迎え入れます。担任以外は安全指導や防犯をしつつ、6月の再登校以降、昇降口での密を避けるために、間隔を開けて並んだ子どもたちを一定の人数で区切り、校舎内へ誘導しています。このような行動が1日を気持ちよくスタートさせるとともに、子どもたちのちょっとした変化に気づいたり、個に声をかけたりすることにつながるのです。一見、当たり前のような動きですが、実はこれはとても重要なことです。

これもまた過去の勤務校での経験ですが、日々忙しい中、子どもたちが既に集まっている教室へ担任が始業直前に入っていくことは決してめずらしくはありませんでした。しかし、桜台小の教員たちには、毎朝子どもたちを教室で迎える習慣が身に付いているのです。校長として、これは自信をもって価値があるといえます。私は今までずっと「教師は子どもと一緒に過ごす時間こそがすべてである」と思ってきました。教師を「プロのアスリート」と喩えるならば、子供たちが登校してから下校するまでが「試合」となるわけです。準備をして体調を整えて、「子どもと過ごす時間（試合）」に全力を注ぐこと、またはその環境の具現を、引き続き最重視してまいります。

これらの「強み」は、ある意味、脈々と受け継がれている桜台小学校の「潜在力」といえます。教職員同士がこの力を自覚して、これからもずっと大事にしていきたいと思えます。

保護者の皆様、地域の皆様、日頃より本校の子どもたちを温かく見守り支えていただいている全ての方々、本年も桜台小学校をどうぞよろしくお願ひいたします。